

## 学年を超えて相手を思いやる人間関係づくりも大切に



文



糸島市のシンボル、可也山が背後に控える可也小学校。天気の良い日の休み時間には、木のぼりや学校脇の上初川(籠門川)での水遊びなど、校内で自然に親しんで遊ぶ子どもの姿が見られます。学校目標では相手を思いやる人間関係づくりを最も重視。全校約500人の児童が、同級生でも異学年でも日頃からお互いの立場を理解し、認め合いや協力し合う経験を大切にしています。

学年を超えた活動に、1年生から6年生まで約20人の縦割りグループを作り、6年生がリーダーになって行う「ブロック活動」があります。毎年11月に開催される「遊楽祭(ゆうらくさい)」では、グループごとに出し物の企画と運営をします。5、6年生が出し物の進行係、1年生が受付係、2～4年生は補助をしたり、自作の

看板で呼び込みをしたりと、それぞれの役割に励む子どもたち。終わったあとは必ずグループで振り返りをして、お互いのがんばりを見つけて褒め合います。

平成29年度からは授業に「学び合い」を導入。授業の中で、子ども同士が考えを説明したり質問をしたりしながら、協力して問題に取り組み、お互いに理解と考えを深めます。「分からんところを自分のペースで友達に質問できる」「教えた友達が「解けた!」って言うとうれしくなる」と、子どもたちの学力はもちろん、相手を思いやる意識も高まっています。

さまざまな立場の子ども同士の交流や活動を通して、社会性やコミュニケーション力を学び、その上で確かな学力と体力を身に付けています。



縦割りのグループで活動する「遊楽祭(ゆうらくさい)」の様子



「学び合い」で学力と思いやりの心を育てます

